

都市再生整備計画(第2回変更)

小川地区

熊本県宇城市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	小川地区	面積	300 ha
計画期間	平成 20 年度 ～ 平成 23 年度	交付期間	平成 20 年度 ～ 平成 23 年度				

目標

大目標：地域資源を活かし、生涯スポーツを通じた地域間の交流促進や安全・安心な地域コミュニティの形成を図るまちづくり

目標1:地域資源である総合運動公園をはじめとした多目的広場等の機能を高め、来訪者及び利用者の満足性・利便性の向上を図る。
目標2:生涯スポーツによる都市と地域の交流を通じ、来訪者及び地域住民などと施設の利用者数の増加を図る。
目標3:地域の防災性を確保することにより、地域基盤の整備基準が向上でき、安全・安心な地域コミュニティの形成を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■熊本県宇城市(人口6万4千人、面積189Km²)は九州の中央、熊本県のほぼ中央に位置し、九州の大動脈である国道3号と九州自動車道が南北に走り、西は天草、東は宮崎県への結節点という地理的条件に恵まれ、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然環境、そして、熊本市と八代市の中間部にあり、都市的機能を併せ持つバランスのとれた水と緑と心豊かな地域である。
■本地区(旧小川町)ゾーンは、平成17年1月に合併した5町の中でも、元々スポーツ活動が盛んな地域でスポーツに対する理解度、さらに九州各県から車で2時間以内圏域といった地理的優位性においても、恵まれた地域である。
■近年、県内の主要サッカー大会や県内外のサッカー競技者の合宿等が、都市公園内の観音山総合運動公園などで開催され、本地区への入り込み客数や宿泊者数の増加の要因となっている。
■合併した際の新市建設計画の主要3施策の中で「誇りのあるふるさとづくり【誰もが楽しめるスポーツの振興】」として、スポーツは健康の保持促進、体力の向上のみならず、連帯感など精神的充足や楽しさ、喜びを与え、またとりわけ青少年にとって、人間形成によい影響を与えるなど、その意義は大変大きなものであると謳ってある。
■社会教育施設の核となるスポーツ拠点施設等の整備が不十分であることから、憩いの場としての地域コミュニティが形成されず、その結果、スポーツを通じた地域間交流が少ない。
■個々の団体レベルでのスポーツ活動が盛んな地域であるが、まちづくりを目的とした活動はほとんど行われていない。

課題

■少子高齢化の進展や国際化・情報化の進展により、住民の生活様式や価値観が多様化・個性化し、それに伴い産業構造にも変化がみられる中で、地方都市においては、地域が有する資源や既存施設を有効に活用し、知恵と工夫により他にないことを先駆けて行うことで地域の活性化を図る必要がある。
■宇城市の中心市街地(旧松橋町)は行政機能が集積しており、また商業・工業関連機能の中心的役割を担っているが、本計画である小川地区としては、スポーツ施設の充実により、宇城市の生涯スポーツゾーンとしての確立を図ることで、旧小川町の活性化を図る必要がある。
■合併後の新市の生涯スポーツ拠点として、来訪者の通過地域ではなく、人口の交流地域となるべく、周辺地域をはじめ、各種団体等との連携した魅力ある生涯スポーツレクリエーション構想の構築をする必要がある。
■市地域防災計画に掲げられている防災緊急避難地には、本計画内には主要建物(小川支所、河江コミュニティセンター、地域福祉センター、各学校)のみであり、緊急避難地として多目的広場を防災公園として位置づける必要がある。

将来ビジョン(中長期)

■防災機能を有し、地域のコミュニティ・憩いの場としての地域公園整備により、来街者と住民が交流する賑わいと活気あふれるまちづくりによる生涯スポーツを通じた賑わい再生。
□本市の将来都市像として掲げられている第1次総合計画の中で、小川地区に関してはスポーツ振興の拠点として位置づけられている。
□新市建設計画では、3つの基本目標【①誰もが暮らしやすいまちづくり、②誇りあるふるさとづくり、③力強い産業づくり】が掲げられており、その中で、本地区は行政機能と商業集積を生かした、新たな拠点形成を目指す「新都市創成ゾーン」として、安心・安全で快適に暮らせるまちづくり、誰もが楽しめる生涯スポーツ推進・振興の拠点となるべき地区として位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
広場及び公園利用者及び来訪者数	人／年	■平成18年度宇城市小川町体育施設年間利用集計表【観音山総合運動公園(グラウンド及びテニスコート)、稲川グラウンド】	公園として施設整備することによる魅力・活用度が向上し、各種団体等と連携することで、来訪者や施設利用者増加が見込めることから、指標として38%増を目指す。	72,515	H18	100,000	H23
宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人／年	■平成18年度宇城市小川町体育施設年間利用集計表【宇城市観音山ふれあいの里(宿泊・利用)】 ■クラブハウスの宿泊・利用	地域コミュニティセンターとして、再整備され、地域住民はもとより、各種団体等の協働による地域資源を活用したまちづくり活動等で交流が活発化することから指標として、48%増を目指す。	1,354	H18	2,000	H23
NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人／年	■生涯スポーツを通して地域活性化を図るための活動に賛同する会員数	賛助会員が増加することで生涯スポーツを通してのまちづくりの充実が期待され、地域資源を活用した交流の促進が図られることから、指標として右記の通り定める。	0	H19	380	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・整備方針1 【公園などのハード整備を進める】 ■地域資源である都市公園内の観音山総合グラウンドをはじめとしてこの地域をスポーツの拠点としての位置づけを図るため、整備する公園等(多目的広場及び屋内多目的広場、並びに地域交流センターとしてのクラブハウス)で施設の充実性をアピールする。また、来訪者及び利用者の満足性や利便性の向上を図る一環で、朝・昼・夜問わず、施設開放を行うため夜間照明や防護ネットを整備する。	公園(基幹／多目的広場施設整備) 公園(基幹／屋内多目的広場施設整備) 公園(基幹／屋外照明施設整備) 公園(基幹／防護ネット施設整備) 公園(基幹／給水・散水施設整備) 地域生活基盤整備(基幹／施設情報等案内板) 高次都市施設(基幹／クラブハウス) 地域創造支援事業(提案／宇城市観音山ふれあいの里施設整備) 地域創造支援事業(提案／クラブハウス) 関連事業(NPO/寄宿舍)
・整備方針2 【整備した施設の有効活用を図る】 ■地域間交流の促進を目指すため、地域住民をはじめとした生涯スポーツ団体等との交流拠点(公園や施設)への誘導手段として施設情報等案内板でアクセス道路等を含め情報を提供することでスムーズな誘導が可能となる。また、施設の有効活用の観点から各種イベントを開催することで、地域住民はもとよりスポーツを通じた交流の増進を図る。	地域生活基盤整備(基幹／施設情報等案内板) 高次都市施設(基幹／クラブハウス) 地域創造支援事業(提案／宇城市観音山ふれあいの里施設整備) 地域創造支援事業(提案／クラブハウス) まちづくり活動推進事業(提案／生涯スポーツイベント) まちづくり活動推進事業(提案／各種イベント) 関連事業(NPO/寄宿舍)
・整備方針3 【今後の施設の活用方法を検討する】 ■施設の有効活用・組織の充実及びネットワークづくりを通じて、子供からお年寄りまで、「だれもが、いつでも、どこでも」を合言葉に生涯を通じてスポーツに親しめる環境を創出し、施設の有機的なネットワークを構築する一環として、防災公園的要素を兼ね備え、地域のコミュニティ形成の一助として寄与できるよう地域住民の公園として整備する。 ■地域資源である都市公園等が充実し、拠点として位置づけられるような取り組みをソフト面から促進し支援しながら、安心・安全な地域コミュニティ形成を図る一環として、調査・分析を踏まえ地域のあるべき姿などを総合的に捉えながら、拠点の活用を探る。	公園(基幹／多目的広場施設整備) 公園(基幹／屋内多目的広場施設整備) 公園(基幹／屋外照明施設整備) 公園(基幹／防護ネット施設整備) 公園(基幹／給水・散水施設整備) まちづくり活動推進事業(提案／拠点活用ワークショップ) まちづくり活動推進事業(提案／NPO等支援事業) 道路(基幹／市道益中線他1線)
その他 ■事業完了後の継続的なまちづくり活動について □事業完了後、整備された施設の利活用実態を検証するとともに、NPO等と連携を図りながら地域とともにまちづくりの推進担い手の育成に努める。 □観光・福祉等の各種団体等と連携を密に図り、来訪者や施設利用者及び地域住民のニーズを取り入れ、それに対応したまちづくりを目指す。 □観光客等の誘致に向け、現在継続して行っているイベントや整備された施設を活用した新たなイベントを開発し、交流人口の増大を促進する。 ■交付期間の計画管理について □各種事業を円滑に推進し、目標に向かって確実な効果をあげるために、NPO等の各種団体と協働し事業効果について評価や事業の進め方を検証する。また、市の広報誌はもとより、あらゆる情報網を活用しながら、積極的に情報を公開する。 ■各施設の設計にあたっての住民意向の反映について □地域資源であり、地域資源となる施設整備については、住民説明会によるワークショップを活用して、住民意向を反映しながら、各種団体等と協議しながら事業コンセプト、事業内容・活用方針等を検討・精査するとともに、今後の拠点となるべく施設の利用方策についても協働路線をとっていく。 ■その他の計画について □先般、スポーツ全般の普及活動を展開するNPO法人が設立され、その拠点となる施設が平成20年に整備されることに伴い、その施設及び団体を含め、本計画との整合性を図りながら連携したまちづくりを行うことにより、なお一層の地域活性化が期待できるし、地域の起爆剤となることも期待する。また、NPO法人等の各種団体と連携により、県内外との交流拡大など、本施設整備を活用した観光等振興を図る。	

交付対象事業費	590	交付限度額	236	国費率	0.40
---------	-----	-------	-----	-----	------

事業	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負分担	うち民負分担	交付対象事業費
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	市道益中線	宇城市	直	310m	21	23	21	23	90	90	90		90
	市道河江2号線	宇城市	直	90m	21	22	21	22	11	11	11		11
公園	益南広場	宇城市	直	18,228.62㎡	20	20	20	20	282	282	282		282
河川													
下水道													
駐車場有効利用システム	—			—									
地域生活基盤施設	—	宇城市	直	—	21	21	21	21	5	5	5		5
高質空間形成施設	—			—									
高次都市施設	益南広場	宇城市	直	1棟、375.38㎡	20	20	20	20	75	75	75		75
既存建造物活用事業	—			—									
土地区画整理事業													
市街地再開発事業													
住宅街区整備事業													
地区再開発事業													
バリアフリー環境整備促進事業													
優良建築物等整備事業													
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型												
	沿道等整備型												
	密集住宅市街地整備型												
	耐震改修促進型												
街なみ環境整備事業													
住宅地区改良事業等													
都心共同住宅供給事業													
公営住宅等整備													
都市再生住宅等整備													
防災街区整備事業													
合計									463	463	463	0	463

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付期間内		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業	宇城市観音山ふれあいの里	宇城市観音山総合公園【都市公園】	宇城市	直	1棟	21	21	21	21	20	20	20	20	20
	クラブハウス	益南広場	宇城市	直	1棟、386.70㎡	20	20	20	20	90	90	90	90	90
														0
事業活用調 査	事業効果分析	—	宇城市	直	—	23	23			5	5	5	5	5
		—			—									0
	生涯スポーツイベント	—	宇城市	直	—	21	22			3	3	3	3	3
まちづくり活 動推進事業	NPO等活动支援	—	宇城市	直	—	21	21			3	3	3	3	3
	拠点活用ワークショップ	—	宇城市	直	—	22	22			3	3	3	3	3
	各種イベント	—	宇城市	直	—	22	23			3	3	3	3	3
合計										127	127	127	0	127
												合計(A+B)	590	

[illegible]

小川地区(熊本県宇城市) 整備方針概要図

目標	地域の観光資源を活かした生涯スポーツによる交流促進や安全・安心な地域コミュニティの形成を図るまちづくり	代表的な指標	広場及び都市公園利用者及び来訪者	72,425人(平成18年度) → 100,000人(平成23年度)
			宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス宇城(仮称)利用者	1354人(平成18年度) → 2,000人(平成23年度)
			NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	0人(平成19年度) → 800人(平成23年度)

